

学位論文内容の要旨

学位申請者	<p style="text-align: center;">瀬尾 知子【論文博士】</p> <p style="text-align: center;">【人間発達科学専攻 平成23年度生】</p> <p style="text-align: center;">(平成25年9月30日 単位修得退学)</p>	要 旨
論文題目	<p style="text-align: center;">幼児の食事の意義理解の発達過程 －幼児期の食事経験の違いによる検討－</p>	<p>食育の重要性が社会的に認知されて久しいが、食事習慣による影響を大きく受ける幼児期の食習慣と子ども自身の食事の意義理解の発達過程を十分に理解することが、食育のプログラムや政策の策定に重要であるという認識が、瀬尾知子氏の学位論文の最終的なテーマである。</p> <p>瀬尾知子氏は、まず母親の養育態度や食意識といった母親による要因（第1研究）、園での食事場面における保育士の働きかけ（第2研究）の実態調査を行い、母親の属性や園の形態による相違を明らかにしている。さらに、子どもの食事の意義理解に、母親の食意識や養育態度が与える影響（第3研究）、食事の形態による子どもの食事の意義理解の差（第4研究）を、統計的に検証した。</p> <p>食育において、他人と一緒に食事をする共食の意義が強調されるが、第5研究において、共食が子どもの食事の意義理解に与える影響を、第6研究において母親の食意識や園の形態が、食事の社会的意義についての理解に与える影響について詳細な分析を加えている（第6, 7研究）。</p> <p>こうした系統的な実態調査に基づき、瀬尾知子氏は、幼児期の食事経験の違いは食事の意義理解の発達過程に影響を与えているが、子どもの発達に応じて理解されるものと、食事経験によって理解されるものがあること、幼児期の食事経験は食事に関するより詳細な知識の獲得に寄与していること、食事の意義は、社会的情報の有無や質によって影響を受けることなく、食事と成長の関連、食事を他者と食べることは好ましいことであるといった食事の基本的な価値づけは早期に発達すること、食事に関する知識として獲得される、食事の意義を理解する際には、養育者の社会的習慣や価値観や食事経験が影響を与えることなどを明らかにした。</p>
審査委員	<p>(主査) 教授 榊原 洋一</p>	
	<p>教授 小玉 亮子</p>	
	<p>准教授 刑部 育子</p>	
	<p>教授 浜野 隆</p>	
	<p>准教授 富士原 紀絵</p>	